

平成30年度 学校評価結果

高山村立高山小学校

A:十分成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった

評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策	自己評価①	自己評価②
I 保護者との連携	1保護者への情報提供	①「学校や子どもの成長の様子がわかる」と答える保護者が80%以上である。	○学校・学年・保健等、各種たよりの発行、ブログによる情報発信 ○情報提供の機会の設定(授業参観、学級懇談、教育相談、親子行事 等) ○連絡ノートや電話によるきめ細かな家庭連絡	A	A
	2連携のための環境づくり	②学校の諸行事に参加している保護者が80%以上である。	○参加しやすい日時の設定 ○懇談会の持ち方の工夫 ○案内の早期通知	A	A
	3保護者への対応	③「学校は、連絡や相談がしやすい」と答える保護者が80%以上である。	○共感的姿勢での対応(カウンセリングマインド) ○連絡、相談機会の設定(家庭訪問週間、教育相談週間、随時相談・訪問)	A	A
II 確かな学力	4できる・わかる授業	④「授業が分かる」と答える児童が80%以上である。	○指導と評価の一体化を図った指導の充実 ○学び合いの場の設定 ○読解力の向上を目指した授業改善	A	A
	5基礎・基本の定着	⑤教科の基礎・基本が確実に身に付いている児童が80%以上である。	○学習規律の定着 ○繰り返しの学習の時間の確保 ○ICTの活用	B	B
	6学習習慣	⑥「家庭での学習や読書を毎日する」と答える児童が80%以上である。	○学年の実態に応じた家庭学習課題の設定と家庭学習の指導 ○朝読書と図書館読書の推奨 ○生活ノートの点検と励まし	B	B
III 豊かな心	7あいさつ・言葉づかい	⑦進んで挨拶や返事ができる児童が80%以上である。	○登下校時のあいさつ励行 ○始業、終業のあいさつ励行 ○児童会を中心とした働きかけ	B	B
		⑧時や場・相手に応じた適切な言葉遣いができる児童が80%以上である。	○TPOに応じた言葉遣いの日常的指導 ○入退室のマナー指導 ○友達への「さん、くん」付けや優しい言葉遣いの励行	B	B
	8いじめのない温かな人間関係	⑨「学校へ来るのが楽しい」と答える児童が80%以上である。	○「心の居場所」のある学校・学年・学級づくりの推進 ○集団遊びの励行 ○学級会議や学級活動等による自治的な活動の重視	B	B
		⑩いじめの発生予防に努め、いじめの解消率が100%である。	○定期的ないじめ調査の実施 ○いじめの早期発見のための工夫 ○SCと全職員による生徒指導会議の毎月開催	B	B
		⑪相手の立場や気持ちを考えた親切な言動がとれる児童が80%以上である。	○特別な教科「道徳」の授業の工夫 ○児童会を中心とした全校活動の実施 ○意見交流のある授業実践	B	B
	9学校や家庭のルール	⑫学校のきまりや約束を守って生活している児童が80%以上である。	○たかやま学びと生活の約束の実践 ○高山小よい子の一日の実践	A	A
⑬「家族の一員としての役割をもって生活している」と答える児童が80%以上である。		○家事、手伝いの奨励 ○家族同時食事の奨励 ○家族会議の実践	C	C	
IV健康・体力	10基本的な生活習慣(家庭教育)	⑭「毎日、朝食を食べて登校している」と答える児童が80%以上である。	○早寝早起き朝ご飯の推進 ○児童の朝食摂取実態に応じた保健指導の充実 ○学校だよりや保健だよりによる朝食と健康についての啓発活動の推進	A	A
		⑮早寝・早起きをしていると答える児童が80%以上である。	○早寝早起き朝ご飯の推進 ○メディア接触制限の推進 ○生活実態調査の実施と保健指導の充実	A	B
	11体力づくり	⑯「毎日、体を動かして遊んだり、運動したりしている」と答える児童が80%以上である。	○体ほぐし運動、体づくり運動を取り入れた体育授業の実践 ○業間での体力向上の取組の充実 ○放課後の遊びの時間の設定と外遊びの奨励	B	C
V 学校安全	12学校の施設設備	⑰「毎月、学校施設の安全点検を行い、課題のある箇所については確認され、適切な処置がなされている」と答える職員が80%以上である。	○日常点検の実施と毎月の安全点検の励行 ○安全点検箇所のローテーション化 ○当番の迅速化	A	A
	13学校の安全対策	⑱「交通安全、防犯、避難、救護などを想定した訓練を学期1回以上実施し、安全(危機)管理マニュアルに沿って指導を徹底している」と答える職員が80%以上である。	○各種避難訓練の実施 ○交通安全教室、救急救命講習会の実施 ○学期はじめの下校指導、通学路点検の実施	A	B
	14安全対策の連携	⑲「子どもたちの登下校の安全確保のため学校・家庭・地域が連携した取組を行っている」と答えている保護者が80%以上である。	○下校指導の実施 ○日常的な登下校中の危険箇所や登下校の状況等の把握 ○「子ども安全協力の家」の周知による地域ぐるみの安全確保	C	C
VI進路・生き方	15夢や希望	⑳「将来の夢や希望がある」と答える児童が80%以上である。	○自己理解を深める授業実践 ○自己の将来を考えさせるための資料提供 ○全教育活動を通してのキャリア教育の推進	B	B
		㉑「親子で将来の夢や希望について話し合うことがある」と答える保護者が80%以上である。	○啓発活動(キャリア教育関連資料の提供) ○親子体験活動の推進(親子行事、PTA美化活動)	B	B

平成30年度 学校評価結果

高山村立高山小学校

A:十分成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった

評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策	自己評価①	自己評価②
VII組織運営	16教職員マネジメント	㉔「学校教育目標の達成に向け、管理職・教職員が一体になって努力している」と答える職員が80%以上である。	○教育目標、経営方針の明示と学校課題の共有化 ○校務分掌の活性化。 ○自己目標達成に向けた支援	A	A
		㉕「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえる職場の人間関係づくりに努めている職員が80%以上である。」	○職員間の会話への積極的な参加(管理職) ○管理職による日常的な声かけ	A	A
		㉖「職員会議が、校長の運営方針をふまえた情報交換や課題検討の場として機能している」と答える職員が80%以上である。	○議事の精選 ○協議内容の明確化 ○協議事項と連絡事項の整理	A	A
		㉗「PDCAサイクルを確立して学校評価を行い、改善策を具体化している」と答える職員が80%以上である。	○学校評価検討委員会での具体的な改善策の策定と提案 ○記述意見への個別対応	C	C
		㉘「適材適所を配慮して校務分掌が組織され、機能している」と答える職員が80%以上である。	○職員の特長、持ち味の把握と適材適所配置 ○各分掌主任への指導・支援	A	A
		㉙「校内勤務規律委員会を定期的に開催し、常に教職員の勤務規律確保に努めている」と答える職員が80%である。	○職員提案による定期的な勤務規律研修の実施。 ○勤務の適切な調整(配慮)	C	B
	17教育計画	㉚「年間指導計画の作成と見直しをし、これに基づいて取り組んでいる」と答える職員が80%である。	○児童実態即した年間指導計画の作成と学期毎の見直しの実施 ○全クラスの週案の掲示と、全職員による確認	C	C
	18研修	㉛「校内研修は、教師の資質向上と授業改善に結びついている」と答える職員が80%以上である。	○授業の視点を明確にした研究授業(授業公開)と授業研究会の実施 ○管理職による日常的な授業参観と指導・支援	C	A
	19文書管理	㉜「各種文書・データ等は、分掌や担当毎に適切に管理されている」と答える職員が80%以上である。	○文書やデータの文書BOXやPCサーバーによる管理・共有化	A	B
	20学校支援センター	㉝「教育活動の必要な場面で、地域の教育力を効果的に活用している」と答える職員が80%以上である。	○社教主事と連携による外部人材や地域団体・施設の積極的な活用 ○外部人材の教科等年間計画への位置づけ	A	A